

健康通信

安全な手術を目指して



麻酔科部長医師

萩原 伸昭

命を救うために

現在世界中で年間2億件を超える手術が行われていると言われてい
ます。手術による合併症を減らす
ために世界保健機関（WHO）は
2009年に「安全な手術のための
ガイドライン」を発表しました。そ
れに合わせて手術安全チェックリス
トを発表し、その使用を呼びかけま
した。それから10年近くがたち、日
本においても手術安全チェックリス
トは普及が進んでいます。

10の必須目標

「安全な手術のためのガイドライ
ン」では「手術チーム」という言葉
が何度も出てきます。もちろん手術
は外科医が行うものですが、手術に
は多くの職種が関わります。外科医、
麻酔科医、手術室看護師、臨床工学
技士など様々な職種のメンバーがチ
ームになって手術に臨みます。その
手術チームが安全な手術を行うため
に目標とする10の項目をこのガイド
ラインでは定めています。「患者の正
しい部位に手術を行う」「大量出血

のリスクを認識し、適切に準備する」
といった、ごく基本的なことから特
に手術中に問題となる項目が含まれ
ています。これらの目標を達成する
ためのツールとして手術安全チェッ
クリストが作成されました。

チームで情報共有

手術安全チェックリストは大きく
分けて3つのタイミングに使われま
す。まず、患者が手術室に入り麻酔
をかける前に確認を行います。名前、
手術を行う部位、アレルギীর有無
などの最終確認を行います。出血の
可能性のある手術の場合、それに対
する準備の確認をします。全身麻酔
をかけるとき気道（息の通り道）を
確実に確保することが重要で、これ
が難しいことがあります。気道の確
保が困難と予測される場合には特殊
な準備が必要になるので、麻酔をか
ける前に確認を行い、手術チームで
情報を共有することが重要になっ
てきます。

次に麻酔がかかり、手術の準備が
整い、手術を始める前に確認を行
います。これはタイムアウトとも呼ば
れます。

問合先 市民病院（☎76・4131）

れます。タイムアウトとは、バスケ
ットボールやアメリカンフットボー
ルなどの試合中に行われる作戦タイ
ムのことです。手術チームのメンバ
ー全員が一度手を止めて、いつもと
違った手順がないか、特に気を付け
ることはないか確認を行います。

最後に手術が終わりに向かい、傷
を閉じる前に確認を行います。ガ
ーゼや針が体の中に残っていないか、
手術が終わったあと気を付けること
がないかなどの確認を行います。

安全・質の高い医療を

このチェックリストを使ったからと
いってすべての手術で合併症がなく
なるわけではありません。その効果
を調べる研究も進められています。
WHOも病院の状
況にあわせてチェッ
クリストを改訂す
ることを推奨して
います。今後も安
全な手術を行う取
り組みを続けてい
く必要があります。

